

月刊 中東レポート

第 71 号

発行 ウニタ書舗
 東京都千代田区神田神保町1-52
 TEL. (03) 291-5533
 編集 J.R.A.
 郵便振替 東京1-48443
 三菱銀行神保町支店 当座9012656
 会員制 年会費24000円

目次

新世界秩序と中東和平

資料
 • 民族統一指導部アピール七三号
 • ナブルス地区統一指導部特別アピール
 • トルカラム地区統一司合部特別アピール
 • PFLP政治局声明(抄)
 • インティファーダ四三カ月目軍事レポート
 • ヨルダンの政情について(パート一)
 • 重要日誌(一九九一年七月一日)…
 (九月一日)…
 15

新世界秩序と中東和平会議

一九九一年九月一〇日

— 中東での新世界秩序への道を掃き 清めた「クーデター」さわぎ

湾岸戦争後、アメリカ帝国主義の一元支配が着々と推し進められていくなかで、そして、それまで後ろ盾として存在してきたソ連の変容ぶつも譲らない」(シャミール)と言い続けてきたイスラエルの態度表明を待たずに、時期設定にいたった理由は、アメリカ帝国主義が、イスラエルを説得して中東に真の和平をもたらすことが可能と考えたわけでもなければ、イラクに対する示したような国連決議の実行を武力行使をもふくめてでも行うという側に立ったわけでもない。イスラエルにプレッシャーをかけるかのようにみせかけては、逆にアラブ側に、とり

モスクワ訪問中のブッシュは、七月三一日、ゴルバチョフとの共同記者会見で、「〇月中東和平会議の共同主催をうちだした。米ソの協調によって地域紛争の解決を行い、世界に平和を導けるかのように、時期をも設定したわけである。

その前に開かれたG七プラス一といわれたロンドンサミットは、ソ連・ゴルバチョフの実情を如実にしめし、ブッシュのモスクワ訪問は、米ソの関係性をさらに明白にしている。加えて、「三日天下」ともいわれているクーデター劇とその後の動向は、新世界秩序に完全に組み込ま

れたソ連の実態をくっきりと浮かび上がらせた。その会議から排除されているPLOが態度表明していないことはわきにおくとしても、「一歩も譲らない」(シャミール)と言い続けてきたイスラエルの態度表明を待たずに、時期設定にいたった理由は、アメリカ帝国主義が、イスラエルを説得して中東に真の和平をもたらすことをもふくめてでも行うという側に立ったわけでもない。イスラエルにプレッシャーをかけるかのようにみせかけては、逆にアラブ側に、とり

た。とりわけ、PLO抜き、国連決議無視の一〇月中東和平会議をおしつけられたパレスチナ・アラブの人民は、これで再び国際的正當性に沿った和平を望めると、期待を新たにしたのは当然であろう。湾岸では、アメリカ帝国主義は国連決議という錦の御旗を利用できるだけ利用した、

今度は、われわれの側がそれを逆手にとつて米国＝イスラエルをおいつめるのだ、ソ中がしつかりしていれば、それは可能だ……と、多くの人々が口にしたのである。

だが、クーデターの不可解な動きは、人々のなかに疑問を大きくしていった。パレスチナ、レバノンに限らず、第三世界には、旧東欧圏で教育を受けた人々、とりわけ軍事教育を受けた人々が多い。そういう人々からみてクーデター指導部の行動はあまりにも常軌を逸していたからである。結局、クーデターはたった三日で終結。KGBがまんまとCIAにはめられた、と人々はいう。

ゴルバチョフ復権後の、共産党禁止、キューバとの軍事協力停止、アフガン反革命ゲリラのモスクワ招待などなど、矢張りの政策発表の中身は、まさにアメリカ帝国主義の望むところというしかない。

こうした国際情勢を反映して、一〇月和平會議にむけた中東での攻防は、アメリカ帝国主義－イスラエル側の圧倒的に有利な状況下で、アラブ側が反撃していかねばならない構造になっている。

七月八、九の両日、パリで初の五大武器供給国会議が開かれたことは前号で触れた。この共同声明を受けて、米国議会内で、最大の武器供給国である米国が「まず一方的に武器輸出を停止すべきだ」という声が出てきている。それに対し、ベーカーは「それは中東の安定と平和に逆行する」とい、アメリカ帝国主義の軍

まさに、中東総体として、アメリカ帝国主義の一元的な支配体制が着々とつくられていっていよいよ。このように、湾岸戦争後、アメリカ帝国主義の支配の枠内でしか生き残れない状況が第三世界におしつけられてきており、クーデターさわぎ後は、よりそれを決定的なものにしている。アメリカ帝国主義とイスラエルの関係は、誰の目にも明らかである。だが、そうしたなかで、領土的回復や建国事業をも含めて、国連決議に沿った合意を勝ち取れるような政策展開が、中東諸国や諸勢力にこれまで以上にとれれているのである。

二 シリアの和平会議へむけた対応

シリアは、ソ連・東欧の激変で、武器援助の停止をはじめ、大きな痛手をうけている。だが、クーデターにたいしては静観姿勢を保ち、ゴルバチョフの復権に際し、民主主義の勝利を祝うという祝電をうっている。クーデターを声高に支持したサッダム政権とはまさに対照的である。ソ連・東欧の激変以降、アメリカ帝国主義との真っ向からの対決ではサバイバルはないといふ情勢のなかで、そして、ブッシュの中東和平の真の狙いがPLOとシリアを叩くものであることを見すえて、政策展開を行っている。それは、アメリカ帝国主義とクウェートの軍事条約、サウジへの米軍の再派兵などの問題に対する、冷静な対応にも示されている。

レバノン軍の南部展開、民兵解体は、ジャジー

ンからの撤退、「セキュリティゾーン」から撤退、安保理決議四二五の適用にむけて、ボーグルをアメリカ帝国主義とイスラエルに返した。が、イスラエルは、「テロリスト」（＝パレスチナ・ゲリラ）の脅威からシリアの脅威へと論拠をかえて、居直っている、ということは前号で述べた。アメリカ帝国主義は、イスラエルへのプレッシャーを約束し、四二五支持をとなえてきたが、イスラエルへは何らプレッシャーをかけていないことがイスラエル側から暴露され、加えて、これまでの約束についても、次第にあいまいな表現になってきている。

シリアが、ロンドンサミットの前日、ブッシュ案受け入れを表明したのも、アメリカ帝国主義とイスラエルの真意を見抜いていたので、アメリカ帝国主義に対してというより、むしろ、欧州などのサミット参加国に対して、そして全世界に向けて、シリアの和平への熱意を示し、イスラエルの拒絶姿勢を印象づけるものとしてあつた。

八月八日、「西側人質」の一人、イギリス人のマッカーシー氏が釈放された。氏は、西側人質とイスラエル・SLAに捕虜となつていてるレジスタンスマンバーとの交換釈放を訴えた、国連事務局長あての手紙を携えていた。これは、

つづいて、一日には、アメリカ人人質トレーナー氏および、八日に誘拐されたフランス人の釈放が行われ、ブッシュはこの件で、イラン、シリア、レバノンの努力に感謝表明をしている。ブッシュ政権がこうした感謝表明をするのは初めてのことである。

イスラエルは、八二年のレバノン侵略以来の不明兵七人との包括的交換まで譲らないとの立場を表明。ところが、七人のうち何人かはパレスチナ勢力が保持しており、逆にパレスチナ側から、イスラエルがインティファード活動家を含む大量のパレスチナ人の釈放をも含めてこそ包括的交換釈放というものだ、と反撃している。

そもそもイスラエルのパレスチナ人への弾圧は、地域一帯への封鎖、無差別大量逮捕、長期にわたる外出禁止令というものであり、加えて、獄中環境の劣悪さや処遇の悪さ、拷問、弁護権無視、でたらめな判決などなど、いろいろな人権擁護機関から不斷に非難の声があがっている。この点でも、アメリカ帝国主義はイスラエルの非人道性には完全に目をつぶっている。イラクやシリアなどのことになると声高に非難するのとまったく対照的なあり方が、ここでも如実に

レバノン政府は、内戦過程における犯罪行為に關する恩赦案を、八月一四日提示し、議会で二七日それが承認された。政治的暗殺犯を除く内戦中の多くの犯罪に対するものであり、それは、昨年一〇月一三日以来フランス大使館に

事援助継続、親米政権への武器輸出こそが、「中東の紛争抑止力」「地域の集団安保体制づくりに貢献する」と主張している。新世界秩序Ⅱアメリカ帝国主義の一元支配ということが如実に示されている。

ロンドン・サミットで、イスラエルのセツルメントの中止とアラブ・ボイコットの中止がうたわれている。周知のようにイスラエルのセツルメントは促進方向にあり、アメリカ帝国主義はそれに対し、信用供与の形で一〇〇億ドルに接的なものを含めた膨大な資金援助の中止からはじめるべきである。だが、ブッシュ政権には声明の方向でイスラエルに本気でプレッシャーをかける意向はないし、自らがそれに縛られる一顧だにしないのは、そのことを知っているからである。

イラクにたいしては国連決議を口実に戦争をしかけたブッシュ政権が、二四二、三三八、四五となるとまったく違った対応をしているのも、アメリカ帝国主義やイスラエルにとって、声明とか決議とかは相手を拘束するためのものであって自らはまったくのフリーハンド、という考え方があるからにはかならない。

これまでソ連が社会主義国として、アメリカ帝国主義の身勝手なやりかたを阻止する役割を果たしてきた。第三世界の諸国、諸政権、諸勢力が、アメリカ帝国主義にたいして、それなりに對決したり、独自性を發揮したのも、ソ連・東欧などを後ろ盾としていたからである。しかし、モスクワのクーデター劇は、そうした力が完全に失墜したこととしめしている。クーデターさわぎ後の諸共和国の独立というなかで、「ソ連自身がもはや国連安全保障の常任理事国としての資格があるのか」という声さえあがっている。ロンドン・サミットでは、ソ連の外交は、物乞いの外交、屈辱外交とさえいわれたのだが、クーデター後のゴルバチョフのあり方は、アメリカ帝國主義の氣をひくための政策展開第一になつてしまっている。エリツィンとどちらがお気にいりになるかを競うかのように。これでは、ソ連にとにかく期待する方が無理というものである。

また他方で、湾岸戦争後ダマスカス合意として確認されたアラブ安全保障体制は、予測されていた通り、崩壊した。

八月二十八日、クウェートはブビアン島事件なるものを喧伝した。ブビアン島に侵攻してきましたイラク軍と交戦し、六〇名近くのイラク兵を捕まえたというのである。国連が調査し、そんな事実はないという結果がだされたのは九月四日。その間にクウェートはアメリカ帝国主義と軍事条約を発表し、米軍の存続を合法化したわけである。他の湾岸諸国にも、いろんななかたちで、米軍による直接的な軍事支配体制がつくられていっている。そして、アラブ安全保障体制の中核であったエジプトとシリアは、その足元をすくわれた形になっている。

ラブ連盟は、いまも一応PLOをパレスチナ人民の唯一合法的な代表として承認し、支持をしている。だが、湾岸戦争のしこりは大きく、クウェートでのパレスチナ人への弾圧や追放に示されるように、パレスチナ人やPLOへの不信が、時にはあからさまに表明されている。アラブよりもイスラエルのほうが信頼できるという、これまでだつたら即ち叩きになることを、平然と口にする人さえあるほどである。

ブッシュ政権がPLOとの交渉を打ち切ったのは、パレスチナ解放戦線アッバース派によるテルアビブ攻撃への非難要求をPLOが拒否したからであった。武装闘争の一切をテロリズムといい、PLOに武装闘争を放棄せよというアメリカ帝国主義の要求を受け入れるわけにはいかないのは、当然である。帝国主義の側が侵略をはじめとする軍事介入を行い、あるいは秘密裏の軍事行動を不斷に展開している。圧倒的に優勢な軍事力をもつて行われる、そうした軍事行動に対して、抑圧された民族、人民の側が武装闘争を含めてたたかうのは、正当な抵抗権としてある。

だが、敵の側は、自らのことは棚にあげて、人民の武装をテロリズムといいくるめ、テロリスト組織とか、テロリスト支援国とか、非難する。そして、自らの国家テロリズムは、「正義」であり、「地域の安定と平和」への貢献である。そして、この面でも、新世界秩序は着々とその地歩を固めつつある。ニューズウイークとの

インタビューでアサド・シリア大統領は、「テロリズムと愛国主義は厳密に区別されねばならない」と答えていたが、帝国主義の側にとって「脅威」になるもののすべてをテロリズムとしてしまうあり方への最低線の抵抗といえる。レバノンでの政府軍の展開において、パレスチナ・ゲリラをも含めた民兵解体を余儀なくされたことをみても、新世界秩序がそこまで第三世界に波及してきていることを示している。

パレスチナ勢力にとって、武装闘争の基盤が極端にせばめられているばかりでなく、経済面を含めた物質条件も悪化している。ソ連・東欧圏の激変によって政治的・軍事的条件が悪化したのに加え、湾岸危機によってパレスチナ人の収入源にも大きな影響を与えたからである。クウェートでのパレスチナ人弾圧と追放は、PLOの物質基盤をなくすという敵の策動の一環である。

それは、在外パレスチナ人だけでなく、仕送りによって助けられていた被占領地人民にとりわけ大きな影響をあたえている。窮屈が人々をかけたままにそれを狙つたものである。そして、ハマスの拡大が、PLO民族統一指導部との矛盾をつくっている、という見方もある。

敵が、PLOを幾つもあるパレスチナ人の組織のひとつとするために、いろいろな策動をして宗教的な救いをもとめさせ、それがハマスの影響力を拡大となつていている、そして、ハマスク・ジハードは、インティファーダの強化、とりわけ、刃物や銃器使用の拡大を呼びかけている。八月一八日には、ラマラ地区で、「一・一四整風運動名でリーフレットがまかれ、「すべてのパレスチナ民主勢力に、新しい戦線を形成し、新しく若々しい能力のある正直な指導部をもつて、歳老いた指導部と交替させん」と訴え、

逃げ込んでいたアウン一派に対する条件付きのフランス亡命も含まれている。そして、アウンらは二八日早朝、脱出作戦「オペラシオン・ヘルテムシヤ」によって、フランスの潜水艦の護衛の下に、海路キプロスへわたり、そこからフランスへと飛んだのである。しかしながら、ラウイ政権がマロン派内のアウン支持気運のたかまりのなかで対処を余儀なくされたという見方もあるが、現政権に参加しているカタエブ、LFへの対抗上アウンの亡命承認がラウイ大統領に有利、という見方もある。しかし、最大のポイントは、こじれていた旧宗主国フランスとの関係改善を計り、人質解放とともに、ECをひきつけ、中東和平をアメリカ帝国主義とイスラエルの思惑どおりにもつていかせることが阻止するためである。

さらに、九月一日、レバノン＝シリア相互防衛条約が締結された。五月に結ばれた両国の兄弟的協調をうたつた条約の一部をなすものであるが、イスラエルの侵略への相互の防衛義務をうたうとともに、アメリカ帝国主義がシリアへの援助の前提として要求していた反ドラッグでの協力と、タエフ合意に基づいたシリア軍の撤退を早める可能性を、含んでいる。そして、シリヤ、レバノンが協力して、ベカーでのハッシャー・細つぶし作戦が展開されている。

シリアの動向に対し、アメリカ帝国主義の圧力に屈した、アラブの大義への裏切り、第二キャンプ・デービッドへの道を歩んだなどといった見方もある。西岸で発表されたPFLPとハ

提案者のブッシュ自らが「歴史的な好機」といい、ヨルダンのフセイン国王が「最後のチャンス」と呼ぶ中東和平会議が、パレスチナ人民の唯一正当な代表としてのPLOを無視しようとするものではあることは、誰の目にもあきらかである。それは、PLOが、湾岸戦争でイラクを支持したことに原因があるのではない。かつてキャンプ・デービッド合意で示されたように、国連などで承認されたPLOの位置とパレスチナ人民の民族的権利を否定し、単なる難民問題として取り扱い、限定された自治の問題とすることを、アメリカ帝国主義とイスラエルが支持しているからである。クウェートからのパレスチナ人追放と相まって、ブッシュ案はまさにそれを狙つている。

湾岸戦争後、アメリカ帝国主義の一元支配として新世界秩序がうちだされ、モスクワのクーデターもあってそれを否定しているが、それは、アラブの中でも、パレスチナ人の民族的権利の承認をいう勢力の中でさえ、PLOを無視するかのような動きが大きくなっている。八月初め、ベーカーは歴訪先の国々に、ブッシュ案をPLOが受け入れるよう工作することを求めたといわれている。

人口の六〇パーセントがパレスチナ人であるヨルダンは、湾岸戦争でミソをつけた。それを挽回すべく、和平会議にあたっては、共同代表問題で元来の親米派としての性格を示している。七月に、米紙とのインタビューで、過去シャクウェートや湾岸諸国からの大量の難民を抱えていたことを、アラブの大義への裏切り、第二キャンプ・デービッドへの道を歩んだなどといった見方もある。西岸で発表されたPFLPとハ

ブッシュ政権は、あたかもパレスチナ人の権利を考慮にいれているかのごとくいうが、ヨルダンとの共同代表という形で、PLOの政治的地位を剥脱することを狙つている。国際的にも、アラブの中でも、パレスチナ人の民族的権利の承認をいう勢力の中では、PLOを無視するかのような動きが大きくなっている。八月初め、ベーカーは歴訪先の国々に、ブッシュ案をPLOが受け入れるよう工作することを求めたといわれている。

人口の六〇パーセントがパレスチナ人であるヨルダンは、湾岸戦争でミソをつけた。それを挽回すべく、和平会議にあたっては、共同代表問題で元来の親米派としての性格を示している。七月に、米紙とのインタビューで、過去シャクウェートや湾岸諸国からの大量の難民を抱えていたことを、アラブの大義への裏切り、第二キャンプ・デービッドへの道を歩んだなどといえるわけである。

翌日あわててそれを否定しているが、それは、アラブの大義への裏切り、第二キャンプ・デービッドとの直接対話の用意があることを打ち出し、それを狙つている。

湾岸戦争後、アメリカ帝国主義の一元支配として新世界秩序がうちだされ、モスクワのクーデターもあってそれを否定しているが、それは、アラブの大義への裏切り、第二キャンプ・デービッドとの直接対話の用意があることを打ち出し、それを狙つている。

旧東欧諸国が次々とイスラエルと国交回復を行い、ソ連も時間の問題という状況である。アラブの大義への裏切り、第二キャンプ・デービッドとの直接対話の用意があることを打ち出し、それを狙つている。

また、ガザのイスラミック・ジハードは、八月四日、「ファイサル・フセインとその交渉団はわれらが大義を裏切つてはいる」と非難したばかりか、「その運命は、裏切り者アブダッラーの運命と同じになろう」と警告を発した。アブダッラーとはフセイン・ヨルダン国王の祖父で、五一年にエルサレムのアルアクサ・モスクでパレスチナ人によって暗殺された当時の国王である。交渉団はPLOと連携しながら、その任を担つている。とみなされており、これまで批判は出されてはいたが、暗殺予告ともいえるような警告は初めてのことである。そして、イスラミック・ジハードは、インティファーダの強化、とりわけ、刃物や銃器使用の拡大を呼びかけている。パレスチナ民主勢力に、新しい戦線を形成し、新しく若々しい能力のある正直な指導部をもつて、歳老いた指導部と交替させん」と訴え、

被占領地一七五万パレスチナ人の代表を含めたPNCの開催を要求、それをもつてすれば指導部の交替は可能となる、と呼びかけている。なお、一月一四日は、チュニスでアブ・イヤードが暗殺された日である。

「パレスチナ人抜きの中東和平はありえない」「PLO抜きのそれはキャンプ・デービッドである」（アラファト）ことは明白である。しかし、現在の国際情勢は、これまで国連で承認されてきた正当性すらゆるさなくなってきたおり、そういうなかで、交渉もすれば闘争もすることこそが問われている。

敵シオニストは、「インティファーダの消滅宣言」を行ったが、同時に、インティファーダにおけるモロトフや刃物、爆弾、銃器の使用の増加を述べざるをえなかつた。これを評して、イスラエル自身が、「国民を安心させることを目的としたものでしかないが、逆にユダヤ人社会内に疑問を大きくしている」という（イスラエル政治分析家、フィッシュマン）。

八月一八日、四八年ライン内の北部のパレスチナ人が、セツルメント建設を理由にしたベドウイン一七家族に対する土地の追いたてに反対するデモを行つてゐる。同じ日、ガリリー地区でも同様の抗議行動が展開されている。そして、八月二三日には、四八年ライン内のアラブ町村長が、当局のアラブ人への扱いに対する抗議と平等の権利を要求して、首相府前で座り込みデモ。タイベの町長は、アラブ人は「税金の支払いでは（ユダヤ人と）同じだが、

おり、その第一歩である中東和平会議をアメリカ帝国主義やイスラエルの意のままにさせない、国際的な戦いを組織していくことである。

資料

民族統一指導部 アピール七三号

●インティファーダの再生とセツルメントへの対決に関するアピール（抄）

わが人民の長い闘いのプロセスには、勝利と敗北といつたものがあった。そしていかなるゆりもどし、英雄的行動と陰謀、上げ潮と引き潮といったものがあった。そしていかなるゆりもどしの後にも、われわれは前以上に強く立ち上り、どんな虐殺の後にもより堅固な姿でたち現れた。わが人民は、ファッショニズム的人種差別的なシオニストをはじめとする敵がいかに強力であつても、決して屈せず、勝利をかちとる決意を固めている。今、われわれは、多くの困難に直面しているが、われらがアイデンティティとインティファーダを破壊することを決して許しはしない。

長年にわたって、わが人民は、自由と独立の

他の権利では大きく限定されている」実情を訴えている。

これは、インティファーダが四八年ライン内でも拡大する可能性があることを示している。中東和平案をめぐる意見の違いをも克服していく下地があるということを。そして、それはPLOを無視し、パレスチナ人の民族的権利を否定するものとしてある。だが、現在の情勢、とりわけモスクワでのクーデターさわぎのあとでは、それを一蹴することにも問題があり、パレスチナは苦しい選択をせまられている。九月後半に予定されているPNCで態度決定することにようが、受け入れても、PLOの影響力は大きく限定され、拒否すれば、PLO抜きで進められることを認めてしまうことになるからである。

それだからこそ、態度決定をめぐって、論議が闘われており、それは一見、深刻な内部矛盾のようにも見える。だが、同時に、パレスチナ人民が、そうした論争を通して、より強固な団結を導きだすであろうし、その糸口も存在している。

結語にかえて

「中東和平外交をブッシュ政権が進めるのは、中東に不安定要因があるためではない。湾岸戦

ため大いなる犠牲を払つてきた。その結果、多くの国連決議が承認しているように、われわれの民族としての独立性、独立性、その代表としてのPLOの唯一性、正当性を全世界に認知させてきた。いかなる解決も、PLOの役割抜きにはありえない。

ベーカーのシャトル外交を通して、米国政府は、アラブとシオニスト当局との正常化プランなるものをおし進め、わが民族的権利、すなはち、帰還、自決、独立国家建設をないがしるにする自治という降伏的解決を計ろうとしている。PLOを排除し、エルサレムの位置を無視し、米国－イスラエルの方向に沿つた貧困な会議を、全面的に支持された国際会議であるかのようになつぞうしようとしている。

敵シオニストの策謀は、歴史的にも、土地および人民を根こそぎ奪い去るというものであつた。この策謀は、今、大量の移民を得て、完全に表面化している。シャミール政権は、大イスラエル構想を語り、一インチの土地も手放さないといつてゐる。それはワシントンにイスラエルへの圧力をかけたり、国際的決議を順守する意図がないことに支えられたものである。

われわれは、アラブ・ボイコットの解除とセツルメント建設の中止とを引きしようというエジプト首脳の妥協的示唆を－他の親米アラブ政権によるその承認共々一非難する。これは、パレスチナ人民の権利を代償とした、アラブ国家とイスラエルとの正常化という陰謀である。PLOを除外した貧困な会議は、わが人民の正当

争を正当化できるからだ」（ニューヨーク・タイムズ）という声さえある。実際、武器輸出、派兵などなど、アメリカ帝国主義が不安定要因を自ら作り出している。そして、それを、安定の強化につかっている。

ソ連におけるクーデター劇は、新世界秩序への道を掃き清め、湾岸における軍事的存在の恒常化とあわせて、アメリカ帝国主義の中東における支配体制を、一層確実なものにしている。

ソ連・東欧などの後ろ盾がほどまつたく期待できなくなつたいま、中東諸国は、ブッシュ政権の領導する中東和平会議がイスラエルに有利なものでしかないことを理解していくつも、それに公然と対峙しえない状況にある。いいかえれば、アメリカ帝国主義のイニシアチブを承認し、その枠内での戦術的な対応をもつていている。

そのためにも、第一に、四八年ライン内のパレスチナ人や進歩的ユダヤ人との連携をふくめたインティファーダの強化を軸とする、パレスチナ人の統一したあり方。それは、PNCでの民主的論議の中でつくられていくことになろう。第一に、アラブの統一。たとえば、提案されているようなエジプト、シリア、ヨルダン、レバノン、PLOの前線五カ国会議で一致した立場をつくり、それに沿つて一致した対応をアラブ諸国が展開していくこと、そして第三に、新世界秩序を許さない戦いは全世界人民に問われている。

われわれは、新しいPNCの準備委員会による、大衆、諸機関、民族主義勢力の参加枠の拡大への努力を評価する。

われわれは、こうした陰謀の後押しをするアラブ政権への反乱を呼びかける。

われわれは、エリトリア人民の民族的独立を祝す。

われわれは、新しいPNCの準備委員会による、大衆、諸機関、民族主義勢力の参加枠の拡大への努力を評価する。

われわれは、占領当局は、商業会議所の選挙をもつて、戦争相アレンスが語つてゐるよう、パレスチナ人の政治的代表部を見いだそうとしている。したがつて、敵当局のこの企てをつぶし、敵が選んだいくつかの地区での選挙というその当面の政策をつぶし、民族的統一的立場の創出のため、(1)選挙は、統一した民族的リストをもつて行わるべきである。かつ、選出メンバーは、いかななる政治的代表という性格をもつすべきでない。

②選挙へのイスラエル当局によるいかなる介入も拒否する。

③もし、選挙が、各地区の承認や地元住民の利益に結びつくなら、あらゆる地区で、行われるべきである。したがって、すべての商工会議所に、総会を開き、選挙の準備に入るように呼びかける。

二、工業会議所

六七年以來の規定では、それ以前と同様商工会議所は、商人および工場主の平等な議決権を保障することになっている。したがって、

①パレスチナの商工業者は、現在の商工会議所のメンバーシップを維持すべきである。

②イスラエル軍は、ヨルダン法の修正命令を出しておるが、これを無視せよ。命令では、メンバーシップを一五名以上の労働者と五万デニナル以上の資本金をもつ企業主に限定し、多数の工場主を除外しようとしている。さらに占領当局はそうした基準とは別にメンバーシップを却下したり、与えたりしている。

③われわれは、ベツレヘムの工場主たち、とりわけ民族的経済と利益に関わる工場主に、選挙のボイコットを呼びかける。選挙は民族的利益、企業家の利益に反している。民族的経済の発展のため、民族的基金をベースに、企業家のグループづくりでの指導性を發揮されることを呼びかける。パレスチナ国家内の工業、商業部門の活性化にむけて、われわれは将来、全体的な民族的利益と商工業者の利益になる細目に

ついて、統一した民族的立場を採用するであろう。

三、市町村議会

われわれは、市町村議会の指名を拒否する。同時に、これを破るものには警告を発する。われわれは、アブディーズ、バニナームの二つの村、およびジェニン・キャンプでの出来事に終わった者に警告を発する。同時に、カバライエの大衆が、町長指名策動を阻止したことなどを讀える。

四、高校

高校の試験期に不可解なことが起こった。それは占領軍当局の無学文盲強要政策への貢献という否定的なものであり、カリキュラムの改悪、学生や教師の解任や逮捕を意図するものだった。それに対して、決起がみられた。それは、占領当局によるわが人民の文化的地位、教育過程の破壊の策動を覆し、二枚舌現象を終結させた。

われわれは、すべての党派が、この問題に対する改善に努力するように、呼びかける。

五、内部矛盾・対立の解決

われわれは、民族内の諸問題の解決のため、委員会の活性化と実行を、とりわけ民族的解決策を即実行に移すことを呼びかける。

①八月五日、セツルメントとその危険性に関するセミナー、各地における敵のセツルメントの計画を暴露せよ。

②八月九日、インティファーダ四四カ月、ストライキの日。

③八月一二日、占領とギャングセツラーレに対する闘いの拡大・強化。また、テルザータル一

六、建設計画

シオニストのセツルメント建設政策の一環として、占領当局は、市町村の精密地図をだしてある。地図は、日刊紙で発表され、反対を表明するチャンスがあることになっている。しかし、いつも、外出禁止令中に発表され、結果的にパレスチナ人は計画を知らないし、反対する権利を奪われている。したがって、われわれが拒否するのは当然である。同時に、われわれは、これが専門家グループがこうした政策に対しても、対処策を見いだすよう呼びかける。

われわれは、パレスチナの諸機関やグループに、パレスチナ内での民主主義の拡大、決定のプロセスへの大衆の参加の拡大、決定の民族的委員会を創出するよう呼びかける。

インティファーダはわが人民の重要な獲得物である。その防衛と発展をかちとり、ユダヤ化されることは、PLの再生、それは、PL憲章の基本を代表する。

今月の活動をセツルメント建設との対決に集中せよ。民族統一指導部は、以下の活動を呼びかける。

①八月五日、セツルメントとその危険性に関するセミナー、各地における敵のセツルメントの計画を暴露せよ。

②八月九日、インティファーダ四四カ月、ストライキの日。

③八月一二日、占領とギャングセツラーレに対する闘いの拡大・強化。また、テルザータル一

五周年の日でもあり、黒旗を掲げよ。

④八月一七日、セツルメント反対の大衆デモ。

⑤八月二一日、アルアクサ・モスク放火三周年およびセツルメント建設とユダヤ化に抗議のゼネスト。

⑥商店は、八月一二、一三、一六日には終日閉店を。

⑦八月二八日、パレスチナ全域で、ギャングセツラーレの車を攻撃せよ。

⑧八月二〇日すべての自治体で、パレスチナの土地を再宣言し、苗を植えよ。

⑨わが法曹界に、シオニスト・セツルメントの危険性と不法性を示す覚書の提出を初めとする国際的キャンペーインを呼びかける。

⑩ユダヤ進歩勢力に、占領地弾圧政策、土地の強制収用の実状に対する実践的行動でわが闘いを支援するよう呼びかける。

⑪われわれは四八年ライン内の大衆に、セツルメント反対、土地の防衛行動を呼びかける。

⑫在外のパレスチナ人、アラブ人に、セツルメント反対し、強制収用の実状を暴露する行動の組織化を呼びかける。セツルメントと対決するのではなく、パレスチナ人の義務である。われわれは、今月をセツルメントと対決し、セツラーレの足元を焼く月とする。

民族統一指導部

パレスチナ国家
一九九一年八月一日

トルカラム地区統一司令部 特別アピール

一九九一年七月十五日

われらが英雄的人民大衆へ！

われらが氣高き人民大衆へ！

われらが英雄的大義は、現在、最も深刻な状況に直面している。被占領地でもディアスポラの地

でも、わが人民のいろいろな部署に対し、虐殺的行為—それはわれわれの民族的アイデンティティとその信用をなくし、その権利、これまで勝ちってきたものを庄稼することを目的としている—が、日々強化されている。唯一正当な代表として、わが人民の闘いの政治的統合体として、PLOは、その役割ゆえに、熾烈なキャンペーンに直面している。こうしたキャンペーインおよび虐殺の究極の目的は、いうまでもなく、われわれの民族的権利を抹殺することにある。

敵ファシストは、わが人民の統一を破壊し、民族指導部から引きさき、輝かしきインティファードを終息させることを陰謀している。そうした目的をもって、敵は、自由、独立、進歩、社会正義、民主主義を渴望する人民への弾圧をファッショニ的に展開している。

しかし、諸君！ イズディーン・アルカーセム、

フーアド・ナセルの孫たちであり、偉大な殉教者アブ・ジハード、オマル・カーセム、ガッサン・カナファーの息子たちである諸君よ！

諸君は、英雄性と犠牲性を通して、団結を破壊し、その力を分裂せんとするいかなる企てに

も対決する能力、われらが民族的権利、すなはち、帰還、自決そしてパレスチナ独立国家の建設といった権利の貫徹のため闘いを継続する固体意を証明した。

こうした事態は、南部地区で発生した悲しむべき事件によってクライマックスに達した。それゆえ、われわれトルカラム地区民族統一指導部代表部は、こうした恥ずべき異常な行為を非難する。この問題のいろいろな要素について検討した結果、われわれは、その副作用を含めたこの問題は、個人的家族的レベルから民族的レベルへと影響を拡大しているといわざるをえない。こうしたことを繰り返さないため、以下の方向性—それは民族的憲章としてすべての大衆が堅持すべきもの—を堅持することの必要性を強調する。

●わが戦闘的人民大衆、わが輝かしき民族の大衆へ
アルハダフ一九九一年九月一日号より
ソヴィエト、ECそしてアラブ諸政権もそれに唱和しているワシントンの解決策は米国、シオニストの条件と計画に基づくものであり、国際的正當性と矛盾し、パレスチナの大義に反している。二〇年代から闘われてきた民族的大義を、キャンプ・デービッド合意で示したように、単なる難民問題として処理することを目指して

PFLP 政治局声明（抄）

そのため、われわれ、ナブルス地区の民族統一指導部は、以下を訴える。

- 第一回 PNC 決議を民族的立場の基本として堅持すること。
- ベーカーとの会談を中止すること。米国解決案なるものに夢を託すようなあり方をやめること。
- インティファーダとそのさらなる発展を推し進めること。
- PLOと民族統一指導部の下、民族的団結をよりうち固めること。
- 五、ベーカーの歴訪への最良の回答は占領軍および占領当局への抵抗を強化すること。
PLOと民族統一指導部万歳！

敵の敵対行為粉碎！

●わが戦闘的人民大衆、わが輝かしき民族の大衆へ
アルハダフ一九九一年九月一日号より
ソヴィエト、ECそしてアラブ諸政権もそれに唱和しているワシントンの解決策は米国、シオニストの条件と計画に基づくものであり、国際的正當性と矛盾し、パレスチナの大義に反している。二〇年代から闘われてきた民族的大義を、キャンプ・デービッド合意で示したように、単なる難民問題として処理することを目指して

ナブルス地区民族統一指導部の特別声明（抄）

一九九一年七月二二日

今や、米国が、世界各地で、とりわけこの中東地域において政治的不安定を作り出しており、その結果、彼らが何を企んでいるのかが、非常に鮮明になってきている。米国の目的は、イスラエルの利益の防衛であり、擁護者の役割を果たすことである。

だからこそ、イスラエルは国連安保理決議をはじめとする国際的合法性の無視を決めこもうとしているのである。米国とイスラエルは、パレスチナ人の代表 PLO の役割をむしりとることを企んでいる。

米国和平案の中心ポイントは、パレスチナの抹殺である。一〇月に予定されている会議への一部のパレスチナ人は、会議に参加することに反対する。「和平」という名の圧殺策の全般的拒否と国際的正當性の断固たる堅持、そして、国際的正當性の上にこそ、パレスチナ問題、エルサレム問題、ゴランや南レバノンなどの領土問題を含めた中東問題の正當な解決があることを重ねて主張する。

国際的正當性はまた、国際的枠組み、すなわち国連主導、全関係者の平等な参加による国際和平會議を通してこそ成立する。

米国案の会議に全面的ノー！ 国際的合法性にイエス！

この PFLP の立場は、米国案の阻止には至らなくとも、少くともパレスチナ代表なるもののカバーをはがすであろう。PLO 内ではイエス・バットをモットーとするグループがある。だが、このグループも米国の方針をストップしないばかりか、逆に、それにカバーを与えることにしかならないことを印しておこう。

われわれは以下の綱領的立場を提示する。

一、民族的統一と唯一正當な代表としての PLO の地位を防衛せよ！ 民族的基礎を堅持し、PNC 決議、アラブ－イスラエル対立の解決のための基本、国際的正當性をベースにせよ。

二、米国の圧殺的方針を基本的に拒否せよ！ 「パレスチナ人」のカバーをはぎとり、和平のための正當性の側からの提案を示せ！

三、パレスチナ勢力の結束！ 次の PNC でパレスチナ全体の公的立場をつくるためにも全力をあげん。

四、パレスチナ内の問題に関して、眞に勇敢な革命的政治改革と PLO 諸機関内の民主的改革をベースに、PLO の強化を！

五、あらゆる方法を用いてインティファーダを支援し發展せん！

六、米国案に反対するアラブの民族的民主的勢力に、協力、協調を呼びかける！

七、国際的正當性を支持する全世界の諸勢力、政府に、中東危機に関する決議を実行し、二足のわらじ政策と闘うことを行ふことを呼びかける。

一、米国の腹黒い陰謀とともに阻止するぞ！

一、わが人民の唯一正當な代表 PLO 万歳！

一九九一年八月二六日

ること。マスクの使用に関する呼びかけ、すなわちマスクの使用は占領者当局との対決に限定することを順守せよ。われわれは、それらをもつて、マイナーな対立や問題を排し、民族的統一の堅持に全力を集中すべきである。

第二に、人民に対する非人道的行為と闘うこと、それは占領当局およびその手先どもにそうしたことを行うチャンスを与えないことである。これに関して、大衆全体、とりわけ攻撃部隊に、わが人民から離反した、不注意な行為、逸脱した行為と決然と対処するよう、呼びかける。そして、インティファーダの獲得物を防衛し、その継続と拡大を保証していくために、われわれは以下を強調したい。

- 民族的行動を組織する際、町内会レベルの地元協調委をつくること。
- どのような問題が発生した際にも原因を論理的にとらえ、それをもって緊急に対処すること。
- 正直とか評判の高い人士に相談すること。
- 「協力者」がその破壊的企てを遂行するチャンスをなくすような大衆的働きかけを行うこと。
- 民族的、公共的利益は、党派的利益よりも重要である。
- 物事を判定し、行動に移る前に、よく考え、十分に注意深くあるべき。それが占領当局やその手先どもがわれわれの団結に悪影響を及ぼすのを防止することになる。
- 個人的矛盾を党派間の対立へと拡げないことが重要である。

今や、米国が、世界各地で、とりわけこの中東地域において政治的不安定を作り出しており、その結果、彼らが何を企んでいるのかが、非常に鮮明になってきている。米国の目的は、イスラエルの利益の防衛であり、擁護者の役割を果たすことである。

だからこそ、イスラエルは国連安保理決議をはじめとする国際的合法性の無視を決めこもうとしているのである。米国とイスラエルは、パレスチナ人の代表 PLO の役割をむしりとすることを企んでいる。

米国和平案の中心ポイントは、パレスチナの抹殺である。一〇月に予定されている会議への一部のパレスチナ人は、会議に参加することに反対する。「和平」という名の圧殺策の全般的拒否と国際的正當性の断固たる堅持、そして、国際的正當性の上にこそ、パレスチナ問題、エルサレム問題、ゴランや南レバノンなどの領土問題を含めた中東問題の正當な解決があることを重ねて主張する。

国際的正當性はまた、国際的枠組み、すなわち国連主導、全関係者の平等な参加による国際和平會議を通してこそ成立する。

米国案の会議に全面的ノー！ 国際的合法性にイエス！

この PFLP の立場は、米国案の阻止には至らなくとも、少くともパレスチナ代表なるもののカバーをはがすであろう。PLO 内ではイエス・バットをモットーとするグループがある。だが、このグループも米国の方針をストップしないばかりか、逆に、それにカバーを与えることにしかならないことを印しておこう。

われわれは以下の綱領的立場を提示する。

一、民族的統一と唯一正當な代表としての PLO の地位を防衛せよ！ 民族的基礎を堅持し、PNC 決議、アラブ－イスラエル対立の解決のための基本、国際的正當性をベースにせよ。

二、米国の圧殺的方針を基本的に拒否せよ！ 「パレスチナ人」のカバーをはぎとり、和平のための正當性の側からの提案を示せ！

三、パレスチナ勢力の結束！ 次の PNC でパレスチナ全体の公的立場をつくるためにも全力をあげん。

四、パレスチナ内の問題に関して、眞に勇敢な革命的政治改革と PLO 諸機関内の民主的改革をベースに、PLO の強化を！

五、あらゆる方法を用いてインティファーダを支援し發展せん！

六、米国案に反対するアラブの民族的民主的勢力に、協力、協調を呼びかける！

七、国際的正當性を支持する全世界の諸勢力、政府に、中東危機に関する決議を実行し、二足のわらじ政策と闘うことを行ふことを呼びかける。

一、米国の腹黒い陰謀とともに阻止するぞ！

一、わが人民の唯一正當な代表 PLO 万歳！

一九九一年八月二六日

インティファーダ四三カ月目

一 軍事レポート

英雄的軍事行動の明確な拡大（抄）

モカーテル・アルサウラ

八月号（PFLP軍機関誌）

インティファーダの拡大は、占領者の追放、パレスチナの正当な民族的権利と目的的達成にむけたパレスチナ人民の意志の反映である。敵の軍およびギャング・セツラーとの対決が数多く発生している。敵は、その「回答」として、外出禁止令下、大規模な捜索と逮捕を行っている。インティファーダの四三カ月目は、手投げ弾および銃器の使用の拡大として、特記すべきである。たとえば、

六月十九日、ラマラの警察署で大きな爆発。

六月二〇日、ヘブロン近郊でシオニスト占領軍に銃器による攻撃。

六月二一日、ナブルスの占領軍が使用する建物で大きな爆発。

六月二二日、ハンユニス・キャンプでイスラエル・パトロールに銃器を用いた攻撃。交戦は二〇分にわたったと敵当局も認めている。

六月二九日、ヨルダン川沿いのキブツ近くで、イスラエル人の殴殺死体発見。

六月三〇日、ジェニン地区で約三〇分間の軍事衝突。

七月一日、ガザ地区南部で占領軍への発砲攻撃。イスラエル兵一名負傷。

弾。

ガザのバニスヘイラでもパトロールに手投弾。ナブルス地区でも占領軍パトロールおよび警察のパトロールにそれぞれ発砲攻撃。

七月四日、ヘブロン市内でイスラエル・パトロールとパレスチナ武装部隊が衝突。約一時間の銃撃戦。

七月五日、ナブルス近郊でイスラエル・タクシー当局の車に手投弾。

七月二日、ラマラ地区で占領軍ジープに手投弾。

ナブルス高官たちは考へていて、「イスラエル製の武器を使い、被占領地内で活動しているパレスチナ人部隊は、軍への攻撃を計画しており、

これは新しい段階への印である」「われわれも新しい方法をとることが必要だ」と認めている。

「この数カ月、街頭行為は減少。しかし、こそ数週間に、手投弾や銃の使用例が拡大」「インティファーダは別の形態をとつづいている」と付け加えている。

九一年の前半六カ月間で、イスラエル兵六人が殴り殺され、六〇回の銃使用事件が敵当局によつて発表されている。シオニストの参謀長はシオニスト戦争相アレンスは、インティファーダに対する勝利宣言をあわせて行った。だが、その本人が、インティファーダが街頭戦争から武装闘争へと発展することに危惧を表明している。

ハリスはウージで射たれ、ベホルミは九ミリ・ガンドで射たれたようだ、と報道した。そして、

わがPFLPは、この二つの作戦にたいする声明を発表。そこで、PFLPの一部隊がハンユニスでセツラーの車を攻撃し、別の部隊がラファへの作戦を遂行したことを表明した。

インティファーダの四三カ月目は、一二以上の手投弾や銃器使用の作戦があつた。シオニストの政治分析家フィッシュマンは、当局者のインティファーダ消滅宣言はイスラエル社会内に

の軍事作戦のあと、シオニスト軍は大規模な弾薬を展開した。イデオット・アハロット紙は、

二つの別個の部隊による作戦であり、モシュボハリスはウージで射たれ、ベホルミは九ミリ・ガンドで射たれたようだ、と報道した。そして、

わがPFLPは、この二つの作戦にたいする声明を発表。そこで、PFLPの一部隊がハンユニスでセツラーの車を攻撃し、別の部隊がラ

ファへの作戦を遂行したことを見出している。

六月九日～七月八日のインティファーダに関連した表

パレスチナ人の死者数

一〇

爆発事件

五

殺戮事件（未遂も含む）	四
モロトフ使用事件	五四
シオニストの死者数	一
シオニストの負傷者数	一三
焼かれて壊された車	一五
占領軍協力者の死者数	三

ヨルダンの政治情勢について（パート一）
ヨルダン人民民主統一党との
インタビュー

外の諸階級の様々な意志・思想を反映している。ヨルダンが、今通じている歴史的段階は、社会に存在する闘争をコントロールする優れたセンスを必要としている。われわれは憲章を国家ブルジョアジーとそれ以外の諸勢力との間でかわされた歴史的妥協とみている。

なぜそう見るのか？ ヨルダン社会は、一〇年前、あるいは、憲法が議会によって制定された四〇年前と比べ、大きく変化している。社会の全分野で発展がみられたが、その全期間、憲法は、政府によって凍結され、ただ社会の全面的・とりわけ、政治的・統制に利用されたにすぎない。

国家の諸機関は凍結され、ブルジョアジーの道具としてのみ機能した。三〇年間、われわれは戒厳令下におかれ、当局がこの法（憲法）を政治運動、とくに、民族主義者と左翼のそれを抑圧するため利用するのを見てきた。

八九年、経済状況の悪化と共に、南部で四月反乱がおこり、ブルジョアジーは、もはやこれまでのように、国を運営しないことを認識した。彼らは、社会におけるその支配的役割を維持するための出口を捜し求め、結局、新たな国民的憲章をもとめるに至つたのだ。というのも、彼らは民族的・大衆的運動が、一層大きな社会的爆発へと進みつつあることを認めざるをえなかつたからであり、彼らは、憲章を権力維持のために求め、民主主義を彼ら自身の延命のための道具として受け入れたのだ。

国民憲章は、政治的側面も含んで、国民の社會的生活全般に関わる諸原則を定めている。複数主義と民主主義、社会的民主主義、そして、人民の諸権利の保護が宣言されているのである。経済関係では、四つのタイプに基づいていた、新しい経済をわれわれは建設していくしかなければならぬ。四つのタイプとは、公共部門、民間部門、混合経済、そして、共同組合だ。文化の領域では、憲章は、表現の自由、自由と多元主義に基づいた文化的創造、そして、アラブ的、イスラム的、人道的価値および伝統を文化の源泉とみなすことを唱っている。

安全保障に関する限り、軍の役割は、政治的であることにはなく、国家と国土を守ることにあり、その主要な機能は、ヨルダンをイスラエルから守り、パレスチナ解放闘争をアラブの一員として担つていくこととされている。安全保障の今一つの侧面、国内治安維持について言えば、それは、法制に基づいて、われわれの社会を防衛するということである。国内治安部隊の原則的役割は、ヨルダンにおける法の執行であつて、政治生活への干渉や市民の人間的尊厳に対する攻撃ではない。

憲章の主要な側面は、ヨルダン人とパレスチナ人の関係に関わっている。パレスチナ人の権利・自己の信念を表明し、自分のアイデンティティを守る権利・が原則的要素なのだと、これを述べることはきわめて重要である。憲章は、ヨルダン人とパレスチナ人の歴史的、兄弟的關係を認め、パレスチナの大義を況アラブの民族的大義とみなしている。パレスチナ解放の事業

記したうえで、作戦を遂行したアラブの若者たちが「インティファーダを高地、戦略的ゴールへと向かわせている」、たとえば、「ガザで発生した成功した軍事作戦以上に良い証明があるだろうか」といつており、さらに、「ガルフ戦争後、モロトフの数は毎月四〇～八〇にのぼる。手投弾、オートマチックガン、爆弾のほかにだ」と付け加えている。

九一年の前半六カ月間で、イスラエル兵六人が殴り殺され、六〇回の銃使用事件が敵当局によつて発表されている。シオニストの参謀長は「この数カ月、街頭行為は減少。しかし、こそ数週間に、手投弾や銃の使用例が拡大」「インティファーダは別の形態をとつづいている」と言つている。

武器の使用は拡大するだろうと、多くのシオニスト高官たちは考へていて、「イスラエル製の武器を使い、被占領地内で活動しているパレスチナ人部隊は、軍への攻撃を計画しており、

これは新しい段階への印である」「われわれも新しい方法をとることが必要だ」と認めている。

「この数カ月、街頭行為は減少。しかし、こそ数週間に、手投弾や銃の使用例が拡大」「インティファーダは別の形態をとつづいている」と言つている。

は、ヨルダン全人民にとって、彼ら自身の義務なのだ。

憲章の歴史的部は、文面上、原則上、好ましいものといえる。国家建設の方途として、複数主義とともに諸機関、諸団体の統一性が考慮されているからだ。

もちろん、国民議会の批准の後、この憲章の政治的目標は、法令として定式化されねばならない。複数主義の明確な規定、政党法といったふうに、その他の重要な法令は、労働法と出版法だ。

問 なぜ、労働法がとりわけ重要なのか？

答 あらゆる国に、その社会における階級闘争を表現する団体がある。その意味で、労働法は、労働者の地位と権利を明確にするものであり、そこから、われわれは、社会の形を特徴づけられるというわけだ。

問 労働問題に関して、どんな問題があるのか？

答 主要な問題は、組合の組織化、雇用保証、労働者に対する社会保障などだ。

問 これまで、そういうものは、まったく与えられてこなかつたのか？

答 いくつかは。しかし、雇用者は法律を都合のいいように解釈してきた。重要なことだが、労働する権利とは、神聖な権利だ。いま、多くの失業者がいるが、旧法は社会保険、医療保険を用意していない。われわれは、このことが労働者に有利なよう改善されることを望んでいる。われわれは素晴らしい労働法が手にはいるなど

と考えるほど馬鹿ではない。ここは、今なお、ブルジョア国家なのだから。そこで妥協が行われるだろう。だが、新法案は旧法に比べればよくなつておらず、労働者に社会的諸権利を与えている。

質問の中心にもどうう。国民憲章受諾の結果、われわれは、新法案成立のための重要な敷居をまたぐことができた。他の重要法案も、七月には成立するだろう。選挙法と出版法のことだ。

それは即刻行われるだろう。

問 貴党にとって、それは何を意味するか？

答 わが党は、ヨルダンの政治構造と社会生活に深く根を下ろしており、左派連合内部でのわれわれの役割は増大している。この連合（JANDA）が議会活動、大衆活動を改造していくことを期待している。

二、ヨルダン人民が直面している主要なものは何か？

問 貴党は、議会内外で人民に訴えるための闘争を行つてあるか？

答 われわれは反対派の一つの勢力を代表している。政界にあって、われわれは大衆の要求と必要を代弁しているというわけだ。われわれは、生活の全領域における可能性を改善していくこう

いう彼らの権利を守つている。これが議会や政界における政治表現だが、同時に、われわれは大衆のなかにあって、彼らが、自分たちの権利や重みを自覚するように活動している。女性

同盟、学生や青年の組合を通して、各地の協会といつた社会的闘争のための手段を建設しようとしている。当然、われわれは、彼らのそうちた活動をわれわれの機関誌である週刊「ニダ・アルワタン（民族のよびかけ）」で伝えている。

三、湾岸戦争後のヨルダン大衆運動の評価

問 湾岸戦争後のヨルダン大衆運動をどう評価するか？ 戰争が進歩勢力の活動に与えた可能性は何か？ 何がもっとも緊要な問題か？

答 活動の水準、魂、そして、かつての偉大な高揚が低下していることをわれわれは認めなければならない。今、ヨルダンには、集会やデモといった大衆行動を担うだけの高揚はない。大衆は、政党や運動体以上に敗北感をもつているからだ。社会的闘争の展開と優れた政治・経済的イニシアチブをもつて、大衆運動を再度活性化せねばならない。こうしたイニシアチブの発揮はその政党の新時代を見る目にかかる。主には、民主主義を守り、経済危機の克服をブルジョアジーと政府に迫り、人民諸階級の権利と利益を考慮することだ。

問 政府は経済危機を解決できるか？

答 いや。非常に難しい。われわれは、経済危機の解決という意味では、このイニシアチブが成功するだろうとは思っていない。

問 戦争中、さまざま形の多くの委員会が存在するか？ 戰争が進歩勢力の活動に与えた可能性は何か？ 何がもっとも緊要な問題か？

答 いや。非常に難しい。われわれは、経済危機の解決という意味では、このイニシアチブが成功するだろうとは思っていない。

問 政府は経済危機を解決できるか？

答 いや。非常に難しい。われわれは、経済危機の解決という意味では、このイニシアチブが成功するだろうとは思っていない。

問 戦争中、さまざま形の多くの委員会が存在するか？ 戰争が進歩勢力の活動に与えた可能性は何か？ 何がもっとも緊要な問題か？

答 いや。非常に難しい。われわれは、経済危機の解決という意味では、このイニシアチブが成功するだろうとは思っていない。

重要日誌

一九九一年七月一日

九月一日

七月一日（日）

アサド・シリヤ大統領

中東和平案の受け入

・被占領地で、PFLPとハマスが共同声明。

・米国案は限定的な自治しか認めないもの、われわれを征服し、われらが正当な大義を踏みにじらんとするアメリカ帝国主義とシオニストの陰謀への断固たる拒否、シリアの敗北主義に否、インティファーダの強化」を訴えている。イランのジョムホリ・イスラミック・シリアの米国案受け入れを批判。「アラブの反動は米国の前にひざまずいた。が、アメリカ帝国主義は、その好意の証しとしてイスラエルの前にも同様にすべきと、彼らに説いている」

七月二四日（水）

・シャミール、三つのノー。一、土地と平和の取引、二、PLOの代表権、三、東エルサレム代表。

・アラブ・ソ連議長、ブッシュの中東和平案を非難。案はパレスチナ代表権を無視、これは米国代表。

・レビィ、レバノンからのイスラエル軍の撤退は、全外国軍の撤退、その後のレバノン政府

・ガザのイスラミック・ジャハード、ファイサル・フセインら交渉団に裏切り者アブダッラーの運命と同じになると警戒。人民にインティファードの拡大を呼びかけ。

・アサド大統領、「イスラエルの撤退抜きの和平はありえない」「中東和平会議は国際的合法性を尊重すべき」「パレスチナ代表はパレスチナ人が決める」と。

八月四日（日）

・アサド・シリヤ大統領、「イスラエルの撤退抜きの和平はありえない」「中東和平会議は国際的合法性を尊重すべき」「パレスチナ代表はパレスチナ人が決める」と。

八月六日（火）

・レビィ、六条件を提示。一、土地と和平のり

ンクなし、二、安保理決議と違う、三、UN代表は発言権なしのオブザーバー、四、会議は統制力をもたない、五、それは直接交渉による、六、PLO拒否。

八月八日（木）
・レバノン、西側人質の一人J・マッカーシー氏（英国人）釈放さる。氏はデクレアル国連総長にあてた手紙を携帯。他方、仮人のレイラード氏の誘拐発生。

八月九日（木）
・イスラエル、「和平会議への参加はPLOの指名次第、ただし、PLOメンバーは拒否」
八月一日（日）
・レバノン、米国人人質トレイシー氏釈放さる。
また、三日前に誘拐されたレイラード氏も釈放さる。

八月一二日（月）

・アラファト議長、「パレスチナ人抜きの和平はありえない」「PLO抜きはキャンプ・デービッド」。

八月一八日（日）

・西岸ラマラ地区、「一・一四整風運動」名で、「PLO指導部を交替せん」「被占領地の代表を含めたPNCを勝ちとれ、そうすれば可能」などと訴えたリーフレット配布さる。
・四八年ライン内、北部のパレスチナ人が、セツルメント建設＝ベドウイン＝七家族の土地追いたてに抗議のデモ。ガリリー地区でもパレスチナ人による同様のデモ。

八月二二日（月）

・レバノン、アマルの「闇僚（ベリー、ペイドー）」が、カラミ首相らのリビア訪問に抗議し、内閣から辞任。

九月一日（金）

・レバノン＝シリア、相互防衛条約締結。イスラエルの侵略から防衛を含めた相互の防衛義務、反ドラッグ、シリア軍の早期撤退の可能など。

九月四日（水）

・イスラエル、軍事費の大幅増の新年度予算を決定。他はすべて最大三パーーセントまでの削減のなか軍事費のみが大幅に増加。

九月六日（金）

・ブッシュ、米国議会へイスラエルの一〇〇億ドル借入の信用供与の四ヵ月間停止を提案。

八月二三日（金）

・ソ連、クーデター未遂。

・四八年ライン内、アラブ町村長が首相府前で、座り込みデモ。ユダヤ人とアラブ人とのでは、「税金支払いでは平等だが、他の権利では大きく限定されている」と差別政策に抗議し、権利の平等を要求。

八月二七日（火）
・レバノン、内戦過程での犯罪行為に関する恩赦案を議会が可決。

八月二八日（水）

・アウン、「オペラシオン・ホルテムシア」でレバノンから脱出。一〇ヵ月余りの仮大使館蟄居に終止符。キプロス経由で仮國に亡命。
・クウェート、イラク軍によるブビアン島攻撃発生、交戦のすえ約六〇名のイラク兵を捕虜にした、と発表。

八月三一日（土）

・レバノン、アマルの「闇僚（ベリー、ペイドー）」が、カラミ首相らのリビア訪問に抗議し、内閣から辞任。

九月一日（金）

・クウェート、米国との軍事協力条約を発表。九月一日までに撤退としていた米軍の駐留を固定化。

●編集後記

・シャミール、セツルメントの推進を強調し、米国に一〇〇億ドル借入の信用供与を強調要請。

・アラファト議長、ハマスの代表とPNCの議席問題で討議。合意ならず。

九月九日（月）
・パレスチナ、ユダヤ教の新年にあたり、外出禁止令下にもかかわらず、占領軍への協力者四人が殺さる。

九月一一日（水）
・蜂起四六カ月目に入る

・イスラエル、「セキユリティーゾーン」内の監獄からアラブ人捕虜五一名（男四六、女五）の釈放と同死体九体の返還。

九月一一日（水）

・イスラエル、「セキユリティーゾーン」内の監獄からアラブ人捕虜五一名（男四六、女五）の釈放と同死体九体の返還。

九月一一日（水）

秋の国連総会に南北朝鮮の同時加盟がほぼ確定となりました。つい数年前までは、お互いに同時加盟を拒否していたことから考えると大きな変化です。

アラブとイスラエルが同席することはありますと言ってきた中東でも、同様の方向で進んでいます。「裏切りものサダト！」と非難し、エジプトとの国交断絶

アラブ連盟からの追放などで対応したものでしたが、エジプトのアラブ連盟への再加入、同本部のカイロへの移転、事務局長にエジプト人など、かつては考えられなかつたことが起っています。エジプトが態度をを変えたわけではなく、そういう国際情勢などつけてきていることの結果としてです。

この国際情勢は、「新世界秩序」として正義が正義として通らない世の中になっています。パレスチナ人の正当な要求は、米帝とシオニストの力の前にねじ曲げられ、まさに、新たな闘い方が問われています。